

水資源の保全



マテリアリティの2019年度目標と実績

○：計画通り △：遅れあり

主な取り組み内容	2019年度目標	指標	2019年度実績	自己評価
各生産拠点の水リスクを踏まえた管理の実施	各生産拠点の水リスクを踏まえた水使用量の管理	水使用量実績の把握	国内生産拠点の水使用量実績を把握	○

基本的な考え方

人口の増加や、気候変動による自然環境の変化により、水需要の拡大が予想されており、水資源の保全に対する社会の関心が年々高まってきています。

三菱自動車は、クルマの生産活動において、工業用水、上水（市水）、地下水などを使用しており、下水道や河川などへ排出しています。2019年度は主要生産工場のある地域を対象に水リスク調査を実施しました。水リスクの高い地域では、事業活動による取水および排水が周囲の環境に与える影響に配慮することが不可欠です。

また、当社の取引先の操業においても水は不可欠であり、バリューチェーン全体での水リスク管理の重要性を認識しています。

各国・地域における水資源保全の取り組みとして、取水量の低減や排水水質のモニタリングなどに努めています。

各工場の取水源と排水先

工場	取水源（工業用水、上水、地下水）	排水先
岡崎製作所（愛知県岡崎市）	矢作川	神田支川 →鹿乗川
京都工場（京都府京都市）	琵琶湖	下水道
滋賀工場（滋賀県湖南市）	琵琶湖	下水道
水島製作所（岡山県倉敷市）	高梁川	八間川 →水島港
パジェロ製造株式会社（岐阜県坂祝町）	木曽川	木曽川
三菱・モーターズ（タイランド）・カンパニー・リミテッド（MMTh）	ノンブライ貯水池など	下水道
三菱・モーターズ・クラマ・ユダ・インドネシア（MMKI）	ジャティルフル湖	下水道

取水量の低減

生産工程で使用した洗浄水を予備洗浄に再利用したり、冷却水や温調用水を循環利用したりして、取水量の低減に努めています。

岡崎製作所では、雨水貯留タンクを設置し、雨水の再利用も行っています。また、地下水をろ過する設備を設置しており、災害発生時には社員のみでなく工場近隣の方々にも飲料水を提供できるようにしています。



雨水貯留タンク（岡崎製作所）



地下水膜ろ過設備（岡崎製作所）



排水の再利用

三菱・モーターズ・クラマ・ユダ・インドネシア (MMKI) では、排水のリサイクルや雨水の利用により取水量の低減に取り組んでいます。2019年度は、排水処理場で処理された水のうち、約50%を工場で再利用しました。

また、三菱・モーターズ(タイランド)・カンパニー・リミテッド (MMTh) では、新塗装工場の建設にともない、排水処理プラントの更新プロジェクトが進行しています。このプロジェクトにおいても、処理水の再利用システムの導入を計画しています。



工業用水排水処理場
(インドネシア)

水質汚濁の防止

製作所周辺地域への影響を未然に防ぐため、定期的に地下水の水質や土壌汚染の調査・確認を行い、有害物質が敷地外へ拡散していないことを確認しています。汚染を発見した場合は、ただちに拡散防止策を講じるとともに、行政へ報告し、地域へ情報を公開しています。

水質の異常を検知するため、工場から公共水域への放水口手前に、油膜検知器(※)を設置しています。工場からの排水が敷地外の環境に影響を与えないよう、常時監視しています。

※：油の反射率が水の反射率より大きい性質を利用し、反射率の変化をキャッチして油膜の浮遊を検知するもの



観測用井戸(岡崎製作所)



総合排水処理施設(岡崎製作所)



油膜検知器(岡崎製作所)

TOPICS

合流式排水方式の改善

古い下水道では、雨水と生活排水などを、同じ配管で下水道に排除する合流式下水道が採用されていました。しかし、台風などの大雨の際、下水管・下水処理場の容量を超過した排水が、河川などの公共水域に流出するため、その汚濁負荷が環境保全上の課題となっています。

京都製作所(1944年設立)でも、古い排水管の一部が合流式で整備されていました。そこで、雨水と他の排水を完全に分離するため、排水専用の排水管を新たに設置する工事を段階的に進めています。2019年度には敷地面積にして約30%のエリアの分離工事が完了し、2020年度中には全工事が完了する予定です。



汚水専用の排水管の埋設工事(京都製作所)

合流式下水道の課題の詳細は、京都市ウェブサイトをご覧ください。
(WEB) <https://www.city.kyoto.lg.jp/suido/page/0000008679.html>